

科目	英語	必修	履修学年	1年	授業の方法	講義	時間数	32
目標	患者とのやり取りは大きく2つのタイプに分けられる。一つは患者への質問、もう一つは患者に指示や説明をすることである。日本在住の外国人が急増している今、医療スタッフにとって外国人患者との意思の疎通を図れることは重要な責務の一つになっている。ここでは中学英語の基礎を復習した後、医療英語や医療英単語、簡単な会話のやり取りなどを学習していく。							
内 容								
1 インTRODクシヨン								
2 Body Parts①								
3 Body Parts②								
4 Body Parts③								
5 Bones								
6 Muscles								
7 Joints								
8 医療英語の成り立ち								
9 英会話表現①								
10 英会話表現②								
11 英会話表現③								
12 英会話表現④								
13 英会話表現⑤								
14 英会話表現⑥								
15 総括								
16 定期試験								
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある								
教 材								
『鍼灸マッサージ師のための英会話ハンドブック』ワイマン・ゴードン/大饗里香 著 医道の日本社 配布資料								
						担当講師		會田 夏希

科目	生物学	必修	履修学年	1年	授業の方法	講義	時間数	32
目標	<p>人体を理解するため、中学・高等学校の「生物基礎・生物(旧課程:生物Ⅰ・生物Ⅱ)」の内容の特に人体に関する事項に絞り、細胞の仕組みから、遺伝、反応、恒常性についての基礎的な理解を深める。</p>							
内 容								
1	イントロダクション	生物に必要な基本の用語・単位						
2	第1章							
3	第2章	細胞のしくみ						
4	第3章	細胞のはたらき						
5	第4章	遺伝のしくみ						
6	第5章	刺激の伝達の仕組み						
7	第6章	視覚・聴覚・平衡覚・嗅覚・味覚						
8	第7章	体液の恒常性						
9	第8章	生体防御のしくみ						
10	第9章	循環器系のしくみ						
11	第10章	呼吸器系のしくみ						
12	第11章	排泄や吸収のしくみ						
13	第12章	内分泌系のしくみ						
14	第13章	生殖器系のしくみ						
15	第14章	体温のしくみ						
16	第15章	神経のしくみ						
16	定期試験							
評 価								
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある</p>								
教 材								
『看護に必要な やりなおし生物化学』時政孝行 照林社								
				担当講師	會田 夏希			

科目	物理学	必修	履修学年	1年	授業の方法	講義	時間数	32
目標	物理は生物や医療の世界と深いかわりがあることを理解する。高等学校で物理学を学んでいない学生に対して物理の基礎知識から初め、この知識が人体や医療機器とどのように関わっているかを理解する。							
内 容								
1	イントロダクション	測定と医療機器						
	第1章	簡単な小テスト						
2	数学演習							
3	第2章	力のつりあい						
4	〃	モーメント						
5	〃	医療機器と力学						
6	第3章	流体の基礎/流体と医療						
7	第4章	熱と体温						
8	〃	体温調節と測定						
9	第5章	音と医療						
10	〃	光と医療						
11	第6章	電気と磁気						
12	〃	生物体の電気現象と医療						
13	第7章	原子と放射線に関する基礎知識						
14	〃	放射線に関する正しい知識						
15	総括							
16	定期試験							
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある								
教 材								
『医療系のための物理』第二版 佐藤幸一・藤城俊幸著 東京教学社								
				担当講師	會田 夏希			

科目	政治経済学	必修	履修学年	1年	授業の方法	講義	時間数	32
目標	マーケティングの基本的な考え方やマーケティング理論を学ぶ。また、公民や憲法、現代社会について学ぶ。							
内 容								
1	オリエンテーション							
2	マーケティングの基本的な考え方、3C、4Pの概要							
3	マーケティング理論、市場と消費者の見方(AIDMA,AISASの法則等)							
4	マーケティング理論(自社と競合)							
5	マーケティング理論(製品戦略)							
6	マーケティング理論(価格戦略)							
7	マーケティング理論(流通チャネル戦略)							
8	マーケティング理論(プロモーション戦略)							
9	マーケティング理論(その他総合問題、プロモーション)							
10	マーケティング理論(各問題の復習)							
11	マーケティング理論(公民分野/現代の日本社会)							
12	公民/人権と憲法(人権思想の発達)							
13	人権と憲法/人権思想の発達							
14	政治/憲法的人権							
15	現代社会							
16	定期試験							
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある								
教 材								
配布資料								
				担当講師	稲塚 坂本			

科目	現代社会(コミュニケーション)	必修	履修学年	1年	授業の方法	講義	時間数	32
目標	生きている世界を題材にした現代社会を学ぶ。							
内 容								
1 経済連携、TPPとトランプ—安部のTAG、なぜこうなったか 2 独裁者の時代、1989年天安門、ベルリンの壁、ソ連崩壊からプーチンへ 3 独裁者の時代、アメリカと中国2大国家の確執、トランプの交渉術 4 世界の問題① 日本の公害、地球温暖化と対策 5 世界の問題② エネルギー問題、化石燃料と環境問題、可採限度、原発、シェールガス 6 人口問題、人口ピラミッド、少子高齢化、福祉負担、特殊出生率 7 女性の社会進出、M字型曲線にみる日本の後進性、フランスの先進性、ジェンダーとセックス 8 日本の労働問題と将来の不安、女性不平等、社員の差別、産業比率、自給率 9 日本の労働現況、労働力不足と入管法改定、産業構造の歪み、工業立国 10 日本の労働現況、日本の産業力、自動車、電機業界、外国人労働力 11 日本の産業の未来、工業日本の拠り所、2011年の仕分けの失敗、ロボット工業 12 今年の世界、第二次冷戦構造、韓国の迷走、ポピュリズム世界化 13 世界情勢 韓国と日本の外交史、アジアの現在の混迷と憂慮 14 日本の問題(おさらい)、技術力の後退、産業のアンバランス、高齢化社会対応 15 課題の取り組み 16 定期試験								
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある								
教 材								
配布資料								
担当講師						稲塚 坂本		

科目	文章実務		必修	履修学年	1年	授業の方法	講義	時間数	32
目標	名文読解や随筆読解をとおして文章理解を深める。								
内 容									
1 ヒトはなぜ読みなぜ書くか、名作読み合わせ 2 書き言葉と話し言葉、役割の変容、ネット支配時代のコミュニケーション 3 各文の精読、小僧の神様、小説と文学の狭間 4 名文読解、小僧の神様、主人公は誰か、倫理と含羞気障 5 随筆読解、随筆とエッセーの違い、エッセー名人対比 6 随筆読解、随筆とエッセーの違い、エッセー名人対比、硬派の最右翼、曾野綾子、知性と偏見 7 随筆読解、(学術読解)、「利己的遺伝子」「芋洗う猿」「集合的無意識」 8 文章理解、ノンプロ随筆、ベストエッセイからの涙の理由 9 最高の達人の短編とエッセイ読解 向田邦子「父の詫び状」「犬小屋」 10 向田邦子随筆、昭和最高の随筆作家から読み取る知性と人間性 11 翻訳短編 O.ヘンリーの2大名作「賢者の贈り物」「最後のひと葉」 12 翻訳短編の超有名作 ろあるだーる「南からきた男」他 13 松本清張の一番怖い短編「家紋」巨人作家の繊細な筆、絶対的恐怖の表現 14 宮沢賢治の詩情と激情 15 童話の裏に広がる深い思想 16 定期試験									
評 価									
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある									
教 材									
配布資料									
担当講師					稲塚 坂本				

科目	文章実務	必修	履修学年	1年	授業の方法	講義	時間数	32
目標	文章作成を通してさまざまな実務文書作成が行えるようになる。							
内 容								
1 序論「書く力がなぜ重要になっているか ビジネス分の読ませるポイント」 2 手紙文の作成 私信の挨拶状、案内状、季語と前文と結語の選び方 3 ワードで作る文章の優位点、開店挨拶状を実際に作る 4 ワード文章作成、挨拶状、私信と公信の違い、知性を感じるレイアウト 5 ネガティブレター お詫び状 始末書 ネガティブレターの重要性、ポジティブな意味 6 ネガティブレター お詫び状作成、文書とレイアウト 7 履歴書を作る 学歴・職歴・同期の書き方 8 ビジネス文書 ワードとエクセルのハイブリッド文書 9 請求書を作る ワードとエクセルの複合型書類 10 ワード文書作成 クリスマス案内状 イラスト マップ レイアウト処理テクニック 11 エクセルによる文章作成 ページ設定 ワードデータ移動 12 ワードで作る季節のカード クリスマスカード 年賀状の実作 13 企画書作成 企画書の構成 客をひきつける要素 背景説明コンセプト 14 稟議書 社内外メールの作成 企画書推進実績に伴う根回し文書の実際 15 課題文章の実作 履歴書 添え状 企画書 16 定期試験								
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある								
教 材								
配布資料								
担当講師						稲塚 坂本		

科目	保健体育		必修	履修学年	1年	授業の方法	講義	時間数	32	
目標	健康に対する幅広い理解と生涯にわたる応用力を養う。 加えて、専門的な運動実践法を学ぶ。									
内 容										
1 オリエンテーション(授業の概要と進め方) 2 心身の発達の特徴と運動 3 生活とスポーツの意義・生活文化としてのスポーツ 4 学生にとっての健康・体力のためのスポーツ 5 運動の科学(生理学、力学、心理学) 6 運動の種類、特徴と技術の構造・オリンピック物語 7 各種スポーツの練習法①基礎体カトレ・陸上競技 8 各種スポーツの練習法①トリム運動、母子の幼児体操 9 運動の練習と安全対策 傷害予防、応急処置 10 社会生活と体育 中央・地方の体育行政 11 性とスポーツライフサークル・健康管理・環境管理 12 栄養と健康 ①食事と心身の健康 13 栄養と健康 ②健康な食事の条件・栄養の至適供給 14 栄養と健康 ③運動と食事摂取・アルコール・喫煙 15 世界と日本のスポーツ事情 過去・現在・未来 16 定期試験										
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
保健体育教本(学術図書出版社)										
					担当講師	駒崎 秀雄				

科目	解剖学総論			必修	履修学年	1年	授業の方法	講義	時間数	16
目標	<p>個体(人体)の構成について学ぶ。個体を構成する最小単位は細胞であり、細胞が組織を構成し組織が器官を構成し、器官が器官系を構成最終的に個体が完成される現象を理解する。生体の階層性＝ヒエラルキー</p>									
内 容										
1	細胞	細胞の構造と機能								
2	体表構造	上皮組織の分類								
3	〃	結合組織								
4	〃	筋組織・神経組織								
5	人体の区分	皮膚の構造								
6	〃	頭頸部・胸腹部								
7	〃	上下肢								
8	定期試験									
評 価										
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある</p>										
教 材										
解剖学 医歯薬出版株式会社										
						担当講師	桑原 羽原			

科目	解剖学各論 I		必修	履修学年	1年	授業の方法	講義	時間数	32	
目 標	運動器系(骨・筋肉)の構造と機能について学ぶ。頭部・頸部・体幹・上肢・下肢・骨盤部の骨と筋肉とその作用について学ぶ。									
内 容										
1	骨格系総論	骨の形状・連結								
2	〃	関節の種類								
3	筋系総論	筋の起始・停止								
4	〃	筋の形状・神経支配								
5	〃	筋の作用・補助装置								
6	全身の骨格	脊柱								
7	〃	胸郭の構成								
8	〃	上肢の構成								
9	〃	下肢の構成								
10	〃	頭蓋骨の構成								
11	〃	胸腹部の筋								
12	体幹の筋	背部の筋								
13	〃	上肢体の筋								
14	〃	下肢体の筋								
15	〃	頭頸部の筋								
16	定期試験									
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
解剖学 医歯薬出版株式会社										
					担当講師	桑原 羽原				

科目	生理学 I			必修	履修学年	1年	授業の方法	講義	時間数	64
目標	<p>医学の基礎を構成する生理学では人体の機能と生命現象について学びます。人体を構成する最小構成要素である、細胞の基本構造と機能について学び、細胞によって諸臓器が構成され、その諸器官の機能とそれらを支配する神経系(自律神経)の働きについて生理学 I で学びます。</p>									
内 容										
1 細胞	細胞の基本構造	17	ホメオスタシス	ホメオスタシスとは						
2 //	細胞膜・細胞小器官の構造と作用	18 //		恒常性に関わるメカニズム						
3 体液	体液の組成と作用・区分・pH	19 //		自律神経の機能						
4 //	体液浸透圧と調節・物質移動方法	20 //		内分泌の機能						
5 筋組織	筋組織の構成	21	神経系	神経系の構造と区分						
6 //	横紋筋細胞・平滑筋細胞の特徴	22 //		中枢神経系の機能						
7 //	筋収縮のメカニズム・神経支配	23 //		末梢神経系の機能						
8 感覚	感覚の種類	24 //		神経興奮のメカニズム						
9 //	体性感覚の伝導・内臓感覚と伝導	25 //		興奮伝達物質のメカニズム						
10 //	痛み刺激	26 //		大脳・間脳・脳幹・小脳の機能						
11 //	特殊感覚	27 //		脊髄の構造と機能						
12 //	特殊感覚の伝導	28 //		脳神経の構造と機能						
13 生体防御機構	防御機構に係わる組織と因子	29 //		脊髄神経の構造と機能						
14 //	白血球の種類と機能	30 //		自律神経の構造と機能						
15 //	免疫機能と炎症反応	31	総括							
16 定期試験		32	定期試験							
評 価										
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある</p>										
教 材										
生理学 医歯薬出版株式会社										
担当講師						桑原 俊男				

科目	診断病態生理学	必修	履修学年	1年	授業の方法	講義	時間数	64
目標	西洋医学と東洋医学的に見地に立脚した診断学、病態学、臨床各論、東洋医学的診断・病態生理を学ぶ。							
内 容								
1 五臓の協調にみる病証の生理 2 五臓の協調にみる病証の生理 3 白血球の正常機能と炎症の五大兆候のメカニズム 4 アラキドン酸カスケード・アレルギー発応各論 5 病態の生理鑑別① 6 病態の生理鑑別② 7 脈診の基礎知識 8 脈状の見方 9 脈診実習 10 東洋医学の思想・哲学 11 陰陽五行説の人体診断 12 体・肺・冠状循環 13 狭心症・心筋梗塞・心不全病態 14 鍼灸療法に必要な病態診断法 15 経絡経穴の活用 16 五臓の協調にみる病証の生理 17 気血津液・精 18 腎の正常機能と尿生成メカニズム 19 ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症、腎不全発症メカニズム 20 症状の鑑別と診断 21 触診と穿刺 22 最新分野の鍼灸療法 23 施灸実習 24 舌苔の望診 25 舌診実習 26 気血津液、精の病証 27 ドライアイについて証を立てるまでの考え方					28 病態の診察と評価 29 体表観察と触察 30 人体解剖見学実習 31 人体解剖見学実習 32 評価			
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある								
教 材								
解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論 配布資料								
					担当講師		専任教員	

科目	経絡経穴概論	必修	履修学年	1年	授業の方法	講義	時間数	48
目標	経絡の流注・奇経八脈との関連、経穴の名称・部位・作用、要穴の特性・部位などについて学ぶ							
内 容								
1 経穴について(解剖学的肢位と方向に関する用語) 2 体表指標と体表区分 3 別説の経穴と意義について 4 督脈 5 任脈 6 手の太陰肺経 7 手の陽明大腸経 8 足の陽明胃経(その1) 9 足の陽明胃経(その2) 10 足の太陰脾経 11 手の少陰心経 12 手の太陽小腸経 13 足の太陽膀胱経(その1) 14 足の太陽膀胱経(その2) 15 足の少陰腎経 16 手の厥陰心包経 17 手の少陽三焦経 18 足の少陽胆経(その1) 19 足の少陽胆経(その2) 20 足の厥陰肝経 21 奇経八脈 22 奇穴について(含. 新穴) 23 経絡経穴の現代的研究 24 経絡経穴の国際標準用語								
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある								
教 材								
経絡経穴概論・東洋医学概論(東洋療法学校協会編)の教科書、プリント								
				担当講師	今井 佳江			

科目	臓腑経絡論	必修	履修学年	1年	授業の方法	講義	時間数	32
目標	東洋医学的視点に基づいた臓腑について理解し、臓腑と経絡についてその関係性や作用を学ぶ							
内 容								
	1 臓腑の概要について 2 臓腑の名称、形態と働き 3 臓腑と陰陽五行 4 臓腑と経絡 5 臓腑における経穴について 6 臓腑と流注 7 臓腑と陰陽について 8 臓腑と五行について 9 臓腑と要穴について 10 臓腑と相生の法則 11 臓腑と相克の法則 12 臓腑と気血の循環 13 臓腑と健康観 14 臓腑と疾病観 15 臓腑・経絡と経穴について 16 定期試験							
評 価								
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある								
教 材								
経絡経穴概論(東洋療法学校協会編)の教科書、プリント								
				担当講師	今井 佳江			

科目	東洋医学概論 I		必修	履修学年	1年	授業の方法	講義	時間数	64
目標	東洋医学の基本的な考え方・特徴・思想を理解する、また、西洋医学との違いを理解し、臨床で生かせるようにする。								
内 容									
1 第1章	東洋医学の特徴	17 第4章	四診						
2 第1節	東洋医学の沿革 東洋医学の歴史	18 第1節	I 神について						
3 //	東洋医学の成立と発展	19 //	II 色 III 形 IV 態						
4 //	日本における東洋医学の歴史と	20 //	V 舌診 (舌神・舌色・舌形・舌態等						
5 第2節	人体の見方 人と自然の統一性	21 第2節	I 声診 II 五音 III 五声 IV 呼吸等						
6 //	虚実と標本	22 第3節	問診 問診の進め方 (主訴)						
7 第3節	東洋医学的治療 治療論	23 //	基本的問診事項 (寒熱等)						
8 //	治療法	24 //	その他の問診事項						
9 第4節	日本の東洋医学の現状 資格の	25 //	身体各部の症状						
10 //	東西両医学の違い	26 第4節	切診						
11 //	東洋医学的な視点の重要性・多様	27 //	反応						
12 //	日本の伝統的鍼灸の特徴と中医学	28 //	腹診						
13 第3章	東洋医学の思想 陰陽学説	29 //	切経・経穴診						
14 //	人体の五行	30 //	脈診						
15 //	飲食物の五行	31 //	四診合参						
16 定期試験		32 定期試験							
評 価									
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある									
教 材									
東洋医学概論(東洋療法学校協会編)の教科書、プリント									
					担当講師	今井 佳江			

科目	東洋医学総合論			必修	履修学年	1年	授業の方法	講義	時間数	32
目標	東洋医学概論で学習した内容の理解を深め、組織・器官の作用を理解する。									
内 容										
1 東洋医学の特徴	東洋医学の沿革									
2 //	人体の見方・東洋医学的治療									
3 //	日本の東洋医学の現状									
4 生理と病理	生体物質と神(精・気)									
5 //	生体物質と神(血・津液)									
6 //	生体物質と神(神)									
7 //	人体における陰陽									
8 //	蔵象学説(臓腑)									
9 蔵象	蔵象学説(蔵象学説の要点)									
10 //	五臓(肝系統)									
11 //	五臓(心系統)									
12 //	五臓(脾系統)									
13 //	五臓(肺系統)									
14 //	五臓(腎系統)									
15 //	五臓の相互関係									
16 定期試験										
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
新版 東洋医学概論 (医道の日本社) 配布資料										
						担当講師	専任教員			

科目	はりきゅう理論 I		必修	履修学年	1年	授業の方法	講義	時間数	32									
目標	はりきゅう理論全般では東洋医学的な立場を尊重しつつ現代医学的な考察を中心とする。理論を正しく理解することは患者クライアントのニーズを満たすことの近道であるし、また医療過誤が起きてしまったさいに自分やその従業員を守ることにも必要なことである。本科目では実務的な経験から特に患者、クライアントへの「説明と同意」、同時にリスク管理の観点からも具体例を挙げながら講義する。																	
内 容																		
1 鍼の基礎知識	2 //	3 基本的な穿刺	4 //	5 特殊鍼法	6 //	7 //	8 //	9 //	10 //	11 //	12 //	13 //	14 灸術の基礎知識	15 灸術の臨床応要	16 定期試験	豪鍼とは 古代九鍼と現代的解釈 刺鍼の基本操作(術式) 基本17手技と関係法規 小児鍼の種類と手技 皮内鍼と円皮鍼の製品について 灸頭鍼とリスク 耳鍼療法の効果とリスク 頭鍼療法の概要と効果、リスク 吸角療法と注意 はり、きゅうの刺激量 生体の感受性とOD 鍼治療の適応と禁忌 材料と刺激量、感受性と効果 灸療法の医療過誤と副作用 筆記試験		
評 価																		
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある																		
教 材																		
東洋療法学校協会編 はりきゅう理論、配布資料(授業毎)																		
					担当教員	木村 椎名												

科目	はりきゅう理論Ⅱ			必修	履修学年	1年	授業の方法	講義	時間数	32
目標	<p>最近では「エビデンス」という言葉だけが独り歩きしているように思えるが、医療においてはサイエンスとエビデンスは類似している。すなわちレシピ通り物事を施行することができたなら目的とする結果の再現性の確立は一定に保つことができるということである。とくに鍼灸臨床は前時代的な「やった」「効いた」「治った」などが重要視されているがそれよりも「何をどのくらい施行したのか」「効果をスケールで計測するとはどのようなことなのか」「症状寛解とは具体的にどこに」「何をどのくらい」ということを検証し、臨床を重ねてゆく必要がある。本科目では実務的な視線で客観的に臨床所見を判断することのできる鍼灸師を育成することを目的としている。</p>									
内 容										
1 鍼治効の基礎	末梢における刺激の受容と伝導									
2 //	感覚の中枢内伝道路									
3 //	鍼刺激と反射									
4 //	鍼鎮痛とは									
5 //	血流改善のメカニズム									
6 //	治療的作用									
7 関連学説	サイバネティックス									
8 //	ホメオスタシス									
9 //	ストレス学説									
10 //	レイリー現象									
11 生理学的考察	圧自律神経反射									
12 リスク管理	施術上の一般的、特異的注意									
13 //	医療過誤									
14 //	感染症対策									
15 臨床応用	生体の感受性、リスク管理									
16 定期試験	筆記試験									
評 価										
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある</p>										
教 材										
東洋療法学校協会編 はりきゅう理論、配布資料(授業毎)										
担当教員						木村 椎名				

科目	はりきゅう実技基礎			必修	履修学年	1年	授業の方法	実技	時間数	64
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・消毒や医療過誤について理解し、安全な刺鍼法を身に付ける。 ・片手挿管が出来る。 ・安全・衛生面に配慮しながら、基本的な鍼の打ち方、押手の三圧が出来るようになる。 ・骨度法を理解し、ヒトの体のランドマークを目標に取穴を行い、正確に刺鍼することが出来る。 									
内 容										
1	オリエンテーション		17	取穴法		下肢・上肢の取穴				
		実技室の使い方	18	〃		足の陽明胃経				
		実技授業の注意点	19	〃		足の太陰脾経				
2	基礎知識	道具の確認	20	〃		手の陽明大腸経				
3	〃	手洗い方法・消毒への理解	21	〃		手の太陰肺経				
4	〃	鍼の基礎知識	22	〃		足の少陰腎経				
5	基礎技術	挿管方法(両手挿管・片手挿管)	23	〃		足の太陽膀胱経				
6	〃	押手と前柔撚、後柔撚	24	〃		手の太陽小腸経				
7	〃	練習台を使って刺鍼練習	25	〃		手の少陰心経				
8	〃	直刺、斜刺、横刺	26	〃		足の厥陰肝経				
9	〃	送り込み、捻鍼	27	〃		足の少陽胆経				
10	〃	単刺での連続刺鍼	28	〃		手の厥陰心包経				
11	〃	目的の深さまでの刺鍼	29	〃		手の少陽三焦経				
12	〃	自身の下腿への刺鍼	30	〃		腰背部の取穴				
13	〃	単刺・単刺での連続刺鍼	31	総括						
14	〃	目的の深さまでの刺鍼	32	実技試験		後期に学んだ内容の確認テスト				
15	〃	取穴に必要な体のランドマークに触る								
16	実技試験	前期に学んだ内容の確認テスト								
評 価										
<p>出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある</p>										
教 材										
配布プリント 教科書:はりきゅう実技基礎編 (東洋療法学校協会編)										
担当講師						東條 福井				

科目	はりきゅう応用実技 I		必修	履修学年	1年	授業の方法	実技	時間数	64
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトに鍼を刺す際の危険性を十分に理解する。 ・基本的な刺鍼動作を身に着ける。 ・刺鍼手技を身に着け、患者に応用できるようになる。 								
内 容									
1 基礎実習	施術上の注意	17 刺鍼中の手技	復習						
2 刺鍼の方法	管鍼法	18 経穴への刺鍼	前腕部への刺鍼（経穴）						
3 //	管鍼法・撚鍼法	19 //	肘部への刺鍼（経穴）						
4 刺鍼の方法刺鍼の角度	//	20 //	肩部への刺鍼						
5 刺鍼中の手技	直刺・斜刺・横刺	21 //	腹部への刺鍼（経穴）						
6 //	自体への刺鍼	22 //	腰部への刺鍼（経穴）						
7 //	//	23 //	上背部への刺鍼（経穴）						
8 //	自体への十七手技	24 //	臀部への刺鍼（経穴）						
9 //	//	25 //	足関節への刺鍼（経穴）						
10 //	//	26 //	下腿部への刺鍼（経穴）						
11 //	相対への十七手技	27 //	膝関節部への刺鍼（経穴）						
12 //	//	28 //	頭部への刺鍼（経穴）						
13 //	//	29 //	頸部への刺鍼（経穴）						
14 //	//	30 //	顔面部への刺鍼（経穴）						
15 総括		31 総括							
16 実技試験		32 実技試験							
評 価									
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある									
教 材									
はりきゅう実技<基礎編>（医道の日本社） 配布資料									
担当講師					鎌田 木村				

科目	はりきゅう治療実技 I (灸)			必修	履修学年	1年	授業の方法	実技	時間数	64
目標	灸術の基礎を身に付け、安全・衛生に配慮しながら用途に応じた灸を作ることができる。									
内 容										
1 総論	もぐさの捻り方	17 復習	板上への施灸(点火)・紙上施灸							
2 基本練習	板上への施灸(無点火)	18 膝周辺への施灸	基本練習・相モデルへ施灸							
3 //	板上への施灸(無点火)	19 //	//							
4 //	板上への施灸(点火)	20 足関節の施灸	//							
5 //	竹筒への施灸	21 //	//							
6 //	//	22 手関節への施灸	//							
7 //	紙上への施灸	23 //	//							
8 //	//	24 肘関節への施灸	//							
9 //	//	25 //	//							
10 失眠への施灸	基本練習・相モデルへ施灸	26 腰部への施灸	//							
11 //	//	27 //	//							
12 足三里への施灸	//	28 腹部への施灸	//							
13 //	//	29 //	//							
14 膝周辺への施灸	//	30 大椎への施灸	//							
15 //	//	31 //	//							
16 実技試験		32 実技試験								
評 価										
出席が規定日数を満たしているものに期末試験を行う 60点以上を合格とし、単位を認める 再試験・追試験を行うことがある										
教 材										
はりきゅう実技<基礎編> 医道の日本社										
担当講師						今井 佳江				